

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 3階		
所在地	北海道 函館市 栄町 16番 16号		
自己評価作成日	平成28年 8月 15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の数も多く協力し合っています。また、当法人はグループホームを始め、クリニック、老健施設、有料老人ホーム、サポート付き高齢者向け住宅等、多岐にわたり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上出来る体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りを心掛けています。入居者様からは当然ですが、御家族様からの要望等も、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来る様に常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃活動等イベント活動へ入居者様と共に職員も参加させて頂き、御理解や馴染みの関係作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が毎日必ず確認できるようにGHの理念を掲示し確認して頂いているほか、事故防止や認知症への対応心得を掲示し職員が同じ理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同町会の会議に参加し、町会との協力関係を築くと共に、地域の学校や施設での催し物に参加させて頂く、運営推進会議や行事に際し、近隣からの参加を募るなど日常的に地域交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の町会とは町内会の会議に参加するなど連絡を密にし、地域の活動に積極的に参加するなど地域の方々との連携を取れるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催しご家族や地域の方々、市町村担当者、包括支援センターの職員など幅広く参加して頂いており、意見を頂きサービスの向上へ繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃より運営推進会議や日常業務等を通じて情報交換や相談を行っており、実績や取り組みを伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、やむなく玄関に暗証番号式のロックを掛けているが、関係者や御家族様、利用者様には、暗証番号の周知をしており防犯以外の目的での使用は行っていない。日常の業務に関し、職員への指導は行っているが疑わしい行為などがあつた場合職員同士で注意し合えるよう環境を整備している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でお互いに注意をし合い、管理者がいない外部の者の目が無いからと言って馴れ合いで済ませることの無いよう指導を行い。職員間での注意を重点的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する資料を作成し、職員が情報を獲得できる環境を作り、必要と思われる利用者様に関してはご家族も交え検討や活用を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の前に御家族への十分な説明を行い、その上で、契約締結時に改めて1項目ずつ説明や質疑を行い理解、納得をした上で契約できるように配慮し、契約締結後も随時サービス、契約内容に関する質問を受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のサービス担当者会議を行い、利用者様・ご家族様の希望を個別に対応するだけでなく、玄関への投書箱の設置、苦情処理担当責任者を明確に提示し、該当のユニットの職員、管理者に言い難い事であっても、対応できる体制を作っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、週間報告書を作成する際に職員からの意見や希望・要望を反映させており、事業所内で終らせること無く法人の全体管理者会議にて議題を提出しより良い対応ができるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員一人ひとりの能力・実績・勤務態度等に向上心や先の展望までを加味した評価を代表者に報告し給与に反映させている。個人の努力や実績が給与に反映される様にし、常に向上心を持って働ける職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や講習会の案内や掲示、希望者には勤務の配慮等を行いステップアップし易い環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	南北海道連絡協議会へ属しており、研修への参加、同業者との交流の機会を設け、情報交換を行うことによりサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い、基本的関係の構築を行うと共に入居後は1ヶ月間を目安に重点的にニーズや生活状況の確認を行いご本人の気付いていない潜在的な希望や生活する上で必要になるサービスを長期的に把握し、ご本人に説明する事によって信頼関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人との面談と同様にご家族にも面談を行い、希望や要望、不安に思っていることなどの聞き取りを行い、更に利用者様の状態を見て、具体例を混ぜながら不安や希望、要望を引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談やその他利用者様ご家族様との接触時に希望や要望を聞き取るだけでなく、ご本人たちが築いていない事柄についても専門職としての目で持って気づき、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個人ごじんの生活歴、既往歴を元にコミュニケーションを図っており、家事やレクリエーションを共に行うことで同じ場所で同じ時間を過ごす関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活に関して定期的にご家族へ報告しており、更に利用者様のケアプランを作成したり、環境を変えようとする際には必ず、ご家族と十分に相談を行い。ご家族、利用者様本人の意向を第一に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去からの馴染みの関係が途切れることの無い様に、面会や外出、外泊に関する利用者様への制限は無く。施設に関しても入り易い、気軽に面会にこられるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に作業を行える行事やレクリエーション、家事作業などを職員も交えて行えるように配慮している。食事の時間やお茶の時間等利用者様同士が交流を深められる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した、契約が終了したからでは終わらない関係を作るよう努め、退居後契約終了後も継続してご家族利用者様が相談できるような環境づくりをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や要望を伺い、また日常生活からご本人、ご家族が気付いていないような専門的な視点から潜在的なニーズにも応えられるようなカンファレンス会議やスタッフ会議を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には利用者様、ご家族様と面談を行い計画作成担当者がフェイスシートへ生活歴、既往歴をなるべく詳細に記入し、職員間での情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録へ記入し、その他にも各種チェックシート、健康管理表、温度板など複数の資料を用いて利用者様の状態の変化を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師、介護職員と定期的に話し合いや会議の場を設け、そこでの情報や希望を基に計画作成担当者が介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯出の利用者様の状態や様子を個別に記録している。専用インターネットシステムや申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の状態、状況に応じ、その時々ニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催のイベントや行事に積極的に参加させて頂き、安全に配慮しつつご本人の意向や必要に応じて活動が出来るように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が昔から掛かっている掛かり付け医や医療機関を利用して頂いている。週に1回、医療連携看護師による健康管理をおこなっており、随時相談や助言を求められる事ができる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は24時間確保されており、週に1回、看護師訪問により健康管理、相談を行っている。看護師からは医療面での適切な相談・助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際は、入院先病院関係者と主治医との連携を取り、入院中でも安全に不安なく過ごせるように配慮いたします。退院後も安心して過ごせるように連携を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応や希望については、必要になる前に前もってサービス担当者会議等を開催し、ご家族やご本人の意向を聞き取り利用者様が最期まで安心して希望通りの生活を続けられる様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを各階に配置しており、勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合い適切な判断・対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いの下、年に2回昼間夜間を想定した避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できる体制を整えている。平時よりも近隣住民の協力が得られるように連携を図り、協力体制構築に努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への対応や声がけに際しても基準となるマニュアルを作成しており、管理者を中心に指導を行い周知を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を確認することを職員へ指導しており、自己決定出来るように努めている。日常生活の中でも利用者様が活躍出来る場を探し、認知症進行を予防、緩和出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合で行動せず、利用者様一人ひとりのペースを大切に、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用できるように支援している。季節にあった服装、ご本人が選択した服装を着られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に準備や片付けを行い、共に同じ食事を食べている。食事が楽しい時間になるようにお話しながら召し上がって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、外部管理栄養士により献立を作成しており、介護記録、温度板を活用し、水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でケアが出来る方へは自立支援の為、見守りのみ行い忘れては、出来なかったときのみお手伝いを行っている。ご自分で出来ない方は、ご本人の心境に配慮し、お手伝いさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を活用してそれぞれの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導及び声かけをしている。排泄パターンを把握することにより失敗を減らし、ご家族様への負担軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録や健康管理表を活用し、全職員が利用者様の排便状況を把握し、便秘予防に努めている。便秘症の利用者様へは、医療機関と連携し便秘症緩和へ努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本の入浴時間は大まかに定めているものの、入浴の時間には制限を設けず、出来る限り好きな時間に入浴できる環境づくりに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様は好きな場所で休息を取られており、ゆっくりと寛げる環境づくりをしている。また、日中の眠りすぎによる昼夜逆転現象を防ぐ為、レクリエーション等適度な運動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守れるように見守り、介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存能力を維持、活用できるように、一人ひとりに合った家事支援・レクリエーション等を提供して様々な場面で喜び楽しめる生活が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様から希望があった場合には、近隣への買い物やドライブなどの付き添い、お手伝いを行っている。また、ご家族様や地域の方々と協力しながら、気軽に外出出来る様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、預かり金制度を制定し管理者と事務員により事務所金庫で管理している。使用時は管理者、職員付き添いにてトラブルの無い様にお手伝いをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご本人様の希望により、居室内に電話を設置している。また、各階の電話の使用にも制限は設けておらず自由に掛けられるように対応している。手紙についても希望により代筆、発送の代行も対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに掲示物の変更を行っており季節感を感じられるフロア作りをしつつ、動線内の障害物を出来る限り排除し、事故防止に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者様と楽しく交流して頂ける空間を作り、活用できるレクリエーションや行事を提供できるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の馴染みの品物を使っていただけ様、ご家族へお願いしており、ご本人の居心地の良い空間を作れる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設ではバリアフリー設備が完備されており、利用者様が自立した生活を送れる様に整備している。また、歩行が困難な方の為、ポータブルトイレ・車椅子なども用意している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 3階

作成日: 平成 28 年 9 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	内部における勉強会、研修会などの実施が少ない。	企画はあるものの行っていない勉強会、研修会を随時実施し事業所職員全体のサービスレベルの向上につなげる。	勉強会や研修会が開催される環境を習慣づけて行く。始めは管理者等が主導し、勉強会などを行い。最終的には職員での主催が出来るようにする。	1年
2	27	介護記録の記載内容がケアプランを実施したものばかりになってしまっており、その記録から利用者様の日常を知ることが難しい。	介護記録がケアプラン実施のチェック表になってしまわないように出来るだけわかりやすく記載し、また介護記録に関する勉強会を開催し、事業所全体での介護記録に関するレベルアップを図る。	介護記録の勉強会を開催し、分かり易い介護記録を周知徹底していき、詳しく書いた介護記録を紙の無駄とする考えを根絶する。	2年
3	13	職員間でケアの質にバラつきがあり、また目標としているレベルにも個人個人で大きな違いがある為、職員間での確執が起きている。	ケアの質が悪い職員ほど自分の介護方法に満足しており、正解であると勘違いをしている。勉強会や研修会を実施し、本来のサービス業とは何なのか？を周知徹底していく。全職員が同一で高い目標を目指せるように意思の統一を図る。	スタッフ会議での意思の統一化、ケアの一本化を行います。フロアごとでのバラつきをなくし、その後、事業所全体でのサービスの統一を図る。	1年
4	9	実際に契約書を用いて契約を行っている管理者、事務員は契約の内容を知っているが、一般職員は契約書を見る機会が無く、契約書の内容も入居時にどのような説明をしているのかも知る機会が無い。	契約書の雛形やデータは事務所にて管理しているが職員が希望しても見られない、以前のような秘匿体質を改善し、事業所内の書式であれば閲覧できる環境、職員が勉強したいという思いを持った際にそれを妨げる事の無い環境を作っていく。	管理者レベルでの秘匿体質の改善、他のユニットであっても遊びに行きやすい環境づくり。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家4階		
所在地	北海道函館市栄町16番16号		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvovsoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の数も多く協力し合っています。また、当法人はグループホームを始め、クリニック、老健施設、有料老人ホーム、サポート付き高齢者向け住宅等、多岐にわたり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上出来る体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りを心掛けています。入居者様からは当然ですが、御家族様からの要望等も、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来る様に常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃活動等イベント活動へ入居者様と共に職員も参加させて頂き、御理解や馴染みの関係作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よろこびの家の理念は「自由を守ります」「プライドを守ります」「ゆとりを持ちます」「思いを大切にします」「分かち合い共に生きます」の5つであり、職員同士が同じ理念を共有しケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣町会である旭町会・栄町会の地域活動には入居者様と一緒に参加している。また、あさひ小学校からは学芸会や運動会のお誘いがあり、入居者様と共に参加している。 今後は防災面での地域との連携を図りたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町会の定例会などで、実際の支援方法や事例報告・検討を行い認知症の理解を深めて頂く機会作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	本年の運営推進会議では、AEDの使用講習会や製薬会社の方を招き勉強会を多く開催している、勉強会以外ではヒヤリハットの事例検討を行いサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議に参加して頂く他、直接伺ったり、定期的に電話にて運営部分の相談等行い協力関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時契約でも身体拘束は行わない事を説明しBPSD症状が見られた場合は直ぐに専門医に相談し措置入院を行うリスクを説明している、施設内では共用部の一部施錠は防犯の面で行っているものの居室等のプライベートな空間は一切行っていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用試験で虐待感想文を記載して頂きリスクのある方は採用しないよう努めている、既存の職員に関しては馴れからくるスピーチロック等行わないように勉強会等開催し指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では生活困窮者の受け入れも積極的に行い都度、成年後見人制度利用を勧めている。職員に関しては資料等の配布や地域包括支援センター職員を講師に招き勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居担当の管理者と受け入れ先管理者の最低2名以上で契約締結に努めている、他施設ケアマネや苦情相談窓口も別途配置しているので不明な点があれば複数名で対応しトラブル回避に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内での運営アンケートを年1回は行い運営推進会議等で公表している、また今後は家族会や運営懇談会等を開催し他方から運営に関する意見を頂戴したいと思っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談を行い意見を出して頂いている、その後管理者間で情報を共有し意見の反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人既定の人事考課があり、それを元に評価を行い給与面の参考にしている、また処遇改善加算を支給している、他残業を極力発生させない様、人員補充や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員を講師に勉強会を行う、他法人内のPTに依頼したり、外部の研修案内を積極的に発信している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣の施設と防災時協力や資質向上の為、積極的に施設訪問を行う様にしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、本人面談を行い、希望を聞き入居に向けて調整しています、また都合が合えば当施設を直接見学に来て頂き初期の関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様とは積極的な面談を行い、不安や希望を聞き実際の事例を説明し安心して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を元に初期プラン作成を行い、入居前の情報提供をしっかりと受け他の必要なサービスを割り出している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で出来る事を多く探し出し積極的な生活リハビリの場を提供し参加して頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には負担にならない程度で介護参加して頂いています、またあまり来所できない方には大きな変化が無くても定期的に連絡したりプラン見直し時期に相談させて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去からの馴染みの関係がいつまでも途切れない様に、面会時間の制限は設けていない。御友人の訪問だけではなく、電話や手紙などもお手伝いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が一緒に行える家事作業(食器拭き、洗濯たたみ)等の場を職員が配慮している。食事の時間やお茶の時間は、入居者様同士が交流を深められる様な環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係を断ち切らない付き合いが出来るように心がけている。最近では退居されたご家族様が遊びに来て頂けるようになった。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望・要望を伺い、御本人様本意の生活を送って頂ける様に日頃の会話や生活から意志や思いを取り入れて、定期的なカンファレンス会議やスタッフ会議を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には御本人様・御家族様と面談を行い、計画作成担当者がフェイスシートを作成し、職員間で情報を共有して馴染みの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録に記入し、入居者様一人ひとりの状態の把握に努めている。変化があった時は、申し送りや専用インターネットシステムを活用しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様、御本人様、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師、職員と定期的に話し合いや会議を開催し、そこでの情報を基に計画作成担当者が介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の入居者様の状態・様子を個別に記録している。専用インターネットシステムも利用しながら、職員間の情報共有に努めており、より良い介護支援計画に繋がるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・御家族様の状態、状況に応じ、その時々生まれるニーズ(外出・外泊・買物・受診)に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の花植え、夏祭り、餅つき等の参加や地域の学校、ボランティア協力の下、御本人様の意向や必要に応じて安心安全な生活が出来る様に支援を行っている。今後更に地域資源を開発できる様、近隣施設に訪問し情報を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が昔から掛かっているかかりつけの医療機関を利用して頂いている。週に1回、医療連携看護師による健康管理を行っており、随時相談や助言を受ける事ができる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は24時間確保されており、週に一度、看護師による、訪問・相談を行なっている。看護師からは医療面での適切な相談・助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当医、担当看護師と情報交換を行い、入院中も安心して過ごして頂ける様に努めている。また、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応や希望については、御本人様御家族様、主治医、医療連携看護師と担当者会議を開き、入居者様が最後まで安心して生活して頂ける様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを完備しており、勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合って適切な判断・対応が出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いのもと、年に2回避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できる体制を整えている。今後も近隣住民の協力が得られるように連携を計り、協力体制を築いていきたい。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いや声掛けには十分に気を配る様、管理者を中心に指導を行っており、御本人様の意志を尊重させたケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の希望を尊重し、自己決定出来る様に努めている。日常生活の中で入居者の活躍の場を探し、増やしていく事で認知症の進行予防に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の自己都合で行動せず、入居者様一人ひとりのペースを大切に、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用出来る様に支援している。季節にあった服装の声掛けや御本人が選んだ洋服が着れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に準備や片付けを行い、共に同じ物を食べている。食事が楽しい時間になるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録を活用し、食事量・水分量等を全職員が把握しています、現在は外部の栄養士へメニュー作成を委託しておりバランスの取れた食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分でケアが出来る方へは声掛け・確認し、御自分で出来ない方には介助を行って、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を活用してそれぞれの排泄パターンを把握し、定期的にトイレに誘導している。失敗を減らして。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録や排便確認表を活用し、全職員が入居者様の排便状況を把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の時間帯は特に制限はなく、御本人様の好きな時間に入浴して頂ける様に配慮しており、御本人様の希望を聞かせて頂いてから入浴の準備を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様は好きな場所で休息をとられており、ゆっくりと寛げる環境作りをしている。また、介護記録を活用して睡眠状況を把握する事で、安心した睡眠がとれる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守れる様に見守り・介助を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存能力を活かせる様に、一人ひとりにあった家事支援・レクリエーション等を提供して、様々な場面で喜びのある生活が送れる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった場合には、職員間で話し合い、近隣への買物やドライブなどのお手伝いを行なっている。また、御家族様や地域の方々と協力しながら、ホーム外へも出られる様に支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様で管理出切る方は管理して頂き、困難な場合は極力ご家族にお願いしている、ご家族が遠方の場合などは後見人制度や管理者で管理させて頂いている。金銭の使用用途は毎月御家族様へ帳簿・領収書で報告させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や御本人様の希望により、居室内に電話を設置している。自由に電話のやり取りが出来るようになってきている。手紙のやり取りも希望に沿ってお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに模様替えを行なっている。物の配置や照明には気を配り、落ち着いて生活して頂ける様にしている。また、当ホームは海側に面しており、波の音や鳥の鳴き声が聞こえる落ち着いた環境であり、日当たりも良好である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者様とも楽しく交流して頂く空間として、ホールや廊下に数々の椅子を設置し、好きな場所で自由に過ごす事が出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には御本人様の馴染みの品物を使って頂ける様、御家族様にお願いしており、御本人様が居心地よく過ごして頂ける様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設ではバリアフリー・手すりが完備されており、自立した生活が送れる様に整備している。また、歩行困難な方には居室内でポータブルトイレを設置し、安心安全な生活を送って頂ける様に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家4階

作成日: 平成 28年 9月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	29	地域資源が限られてきている、その中で今まで活発にやり取りをしてきた町会が高齢化の為活動が低下してきている 新しい地域資源の開発が急務	町会・小学校の負担が大きくなっていく中で、新規開発を行いたい。	近隣施設に訪問し情報提供や防災時に関する協力体制を構築している最中	1年～3年程か
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 5階		
所在地	北海道 函館市 栄町 16番 16号		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の数も多く協力し合っています。また、当法人はグループホームを始め、クリニック、老健施設、有料老人ホーム、サポート付き高齢者向け住宅等、多岐にわたり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上出来る体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りを心掛けています。入居者様からは当然ですが、御家族様からの要望等も、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来る様に常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃活動等イベント活動へ入居者様と共に職員も参加させて頂き、御理解や馴染みの関係作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはよろこびの家独自の理念があり職員が毎日必ず確認できるようにGHの理念を掲示し確認し職員が同じ理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホーム近隣の町会に所属しており町内会の清掃活動や花植えに入居者様と共に参加している。近隣の小学校からは運動会や学芸会のお誘いがあり入居者様と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に密着できるように日頃から町会長と何か参加できることはないか話している。町会主催の行事へのお誘いがあった時は参加できる体制をとっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、活動や生活状況を説明している。ご家族様にも参加を促し、意見交換を行いサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃より情報交換を行っている。運営推進会議にも参加して頂いており、当ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、職員全員で身体拘束について話し合っている。防犯のため玄関に暗証番号式のロックを掛けているがご家族様に説明の上、ご理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新職員には高齢者虐待についての感想文を書いてもらい、高齢者虐待防止への意識を高めている。管理者が中心となり虐待が起きていないか話し合い、検討し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修会に参加している。今後は更に全職員が理解できるように勉強会等に参加し、知識を養う必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様には十分な説明を行い、納得した上で契約、解約を行っている。説明時には、その都度疑問点がないか確認しながら対応し、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口担当者を設置している。意見や要望があった時は職員全員で原因を考え改善策を話し合っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や業務内で随時、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、その意見や提案を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度職員と人事考課、面談を行い、努力や能力を評価し尊重し合える環境作りを行っており、各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部での研修があった時には、声掛け参加を行っている。参加希望の職員には勤務調整を行っている。参加後は報告書を作成し、職員全員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者や管理者は勉強会や会議等で他業者と交流する機会がある。法人内ではパソコンメールで情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、入居窓口担当者がご本人、ご家族様と面談し、困っていること、不安なこと、要望を聞く機会を作っている。早急に話し合い、関わっていく職員全員が共有し、解決できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階からご家族様が困っていることや不安に思っている事、要望は必ず伺い、職員間で把握し、安心して利用できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族が必要としている支援を第一のサービスにするようにケアプランを作成している。場合によっては、近隣の施設と連携をとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活暦を踏まえコミュニケーションを図っている。食事の作り方等を教わり、知識や知恵を学ぶことを忘れずに、一緒に過ごす事で楽しく安心して生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望は可能な限り取り入れ対応している。入居者様の生活や健康状態は面会時や電話で報告しており、職員とご家族様が共に入居者様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や知人との関係が今後も続くように面会の機会を設けたり、時には手紙や電話などをお手伝いさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、生活暦を把握し一人一人に合わせたケアを行っている。お茶や食事の際の座席にも配慮し職員が間に入り他入居者様とコミュニケーションを図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入居者様やご家族様には必要に応じて相談等に対応する事は伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意見等を入居者様やご家族様からお聞きし、生活が満足できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には担当者がフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を把握、職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録に記入し、全職員が把握に努めており、特変があった時は申し送りやインターネットを活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員はサービス担当者会議で入居者様、ご家族様、必要関係者から意見を聞き、すべてを配慮した上で介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の食事量、水分量、排泄状況、行動等を介護記録に記載し、全職員で共有しながら、次回のケアプランに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の状態、状況に応じ外出、買い物、受診等の多くのニーズに対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加や地域の学校、ボランティア協力の下、ご本人の意向や必要性に応じて安心して安全な生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入居者様及びご家族様の希望を大切に、かかりつけ医がいる入居者様は自由に受診、相談が行える様、配慮している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態に変化があった時は医療連携看護師に連絡している。週に1度看護師が訪問し入居者様全員が健康管理を受けられており、情報交換もその都度行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり、入院先には入居者様の生活情報を提供し、入院中も安心して過ごしていただけるよう努めており、随時、医療機関と情報交換し、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される場合には、担当者会議を開き、終末に向けて方向性を担当医師、看護師、ご家族様、職員で話し合い、入居者様が生涯、安心して暮らして頂けるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や応急手当マニュアルがあり、勉強会や研修会を開催し、職員全員が対応出来る様に努めている。又、個々の入居者様に合った急変時の対応についても主治医と情報交換し指示を頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防協力の下、避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できるよう体制を整えている。又、近隣やご家族様の参加も募っており、協力が得られる体制をとっている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉掛けには十分気を配る様、管理者を中心に指導を行っている。信頼関係が深まるにつれ、言葉遣いが軽くなる様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や思いに配慮し活躍の場を増やすことで認知症の進行防止に努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の自己都合で行動せず、入居者様のペースを大切にし、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装の声掛けや、ご本人に選んでいただくようにしている。理容や化粧等ご本人の希望に沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を汲み取り毎日の食事を楽しんで頂ける様に取り組んでいる。食事の準備や片付けを出来るだけ一緒に行い、共に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嗜好を汲み取り毎日の食事を楽しんで頂ける様に取り組んでいる。食事の準備や片付けを出来るだけ一緒に行い、共に食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方は声掛け、見守りを行い、出来ない方には介助で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為に介護記録を活用し、職員連携を図りトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や日中体を動かすよう、全員で行うラジオ体操など適度な運動を心掛け支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴をして頂けるように努めている。入浴が嫌いな入居者様には、無理強いしないよう努め、清潔を保つ為、入浴して頂ける様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様はそれぞれ好きな場所で休息をとられており、その時の気分を尊重している。就寝時間は特に決めておらず個々の習慣を大切に個別に対応出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で常に情報を共有し、服薬状況を把握している。服薬時も手渡し、見守り、介助をし確実に服薬出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能を活かせるように、それぞれに合った、家事作業、レクリエーション等様々な場面で活躍できる支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩、買い物を希望される入居者様とは一緒に買い物に出掛ける等、出来るだけご本人希望に沿って出掛けるよう支援を行っている。希望されない方には定期的に外出を促し、ホームにこもらないよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、預かり金制度を制定し管理者と事務員により事務所金庫で管理している。使用時は管理者、職員付き添いにてトラブルの無い様にお手伝いをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご本人様の希望によっては居室内に電話を設置し自由に使用できるように支援している。手紙の作成をお手伝いし手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは海沿いに面しており、さざなみが聞こえ、日当たりも良い。明るさはカーテンや電気によって常に過ごしやすく調節している。季節に合った花や、飾りつけで季節感をとりいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しく過ごせる空間としてホールや廊下に数々の椅子があり、気の合う入居者様同士で会話されたり、一人でくつろぐ等、自由に過ごせることができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具や趣味の物を置いて、居心地よく過ごして頂ける居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、ホール等バリアフリーになっており、廊下、トイレ、ホール、浴槽にも手摺が設置されている。歩行が困難な方に対しても居室内にポータブルトイレを設置し自立した生活を支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 5階

作成日: 平成 28 年 9 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	25	食事量や排泄状況の把握はなされているものの、介護記録については、病院受診といった例外を除くと記述が定型化してしまっている。	定型化した介護記録から脱却し、入居者様のその時々のおもいや感情が読み取ることが出来るような記述へと改める。	・介護記録のあり方や目的といった基本的な事柄を社内研修等を通じて身につける。 ・業務を通じてどのような介護記録の記載の仕方が望ましいのか検討し、実践していく。	1年
2	35	定期的な避難訓練の実施やマニュアルの整備を通じて災害対策のスキルアップに努めているところであるが、近隣住民あるいは地域の高齢化に伴い十分な援助を得ることが難しくなっており、他の協力機関等の模索が必要である。	避難訓練やマニュアルの習得を通じて事業所内のスキルアップを図るとともに、災害時に協力を得ることができる外部機関等との関係作りを進める。	・避難訓練やマニュアルの習得による災害時のスキルアップを図る。 ・災害時に協力を得ることが出来る外部機関等との関係作りを進め、連携を図る。	2～3年程度
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。